

今年度の検討内容等について

1. 主な検討事項

昨年度に引き続き、狩猟鳥獣の次回見直し(平成29年度予定)へ向けて、より適切な狩猟鳥獣のモニタリングを行うため、本検討会では以下の事項を検討する。

- (1) モニタリング手法の確立していない狩猟鳥獣のモニタリング手法の検討
- (2) 狩猟鳥獣の情報収集手法に係る検討

2. 今年度の調査検討方針について

- (1) モニタリング手法の確立していない狩猟鳥獣のモニタリング手法の検討

1) ウズラ

- ・ 繁殖期にプレイバック法、越冬期に犬による追い出し法で試行調査を実施する。
- ・ これまでの調査結果を総括し、ウズラのモニタリング調査マニュアルを作成する。また、マニュアルを用いた調査体制について検討する。

2) ヤマシギ

- ・ 繁殖期と越冬期にラインセンサス等の試行調査を実施し、生息状況のモニタリング手法確立へ向けた基礎的な知見を蓄積する。
- ・ 調査結果に基づき、モニタリングに最適な手法、時期等について検討する。

3) ヤマドリ

- ・ 毎年初猟日に実施される出合数調査について、調査手法の実態の詳細把握を行い、当該調査データの活用方法等について検討する。

4) 狩猟獣類

- ・ 追加的なモニタリング情報が必要と考えられる獣類について、狩猟者アンケートを実施し、対象獣類の資源性や捕獲数との関係性等を把握する。
- ・ 調査結果に基づき、獣類のモニタリングのあり方について検討する。

- (2) 狩猟鳥獣の情報収集手法に係る検討

- ・ ガンカモ調査やモニタリングサイト1000等、既存調査の手法や調査結果の活用状況等を整理し、狩猟鳥獣モニタリングへの活用可能性を検討する。

3. 検討スケジュール

平成25年 7月31日(水)午前	第1回検討会
平成25年 10月頃	第2回検討会
平成26年 1月頃	第3回検討会
平成26年 2月頃	第4回検討会